

ろうどうしゃ しゃかい すず き かつとし  
労働者の社会へ鈴木勝利を

しょう ひ ぜいはい し へんじょう  
消費税廃止・オリンピック返上

あたら ろうどうしゃ せいとう  
新しい労働者の政党をつくろう

さんいんせんこう じ すず き こう ほ だいいっせい  
6・22 参院選公示 鈴木たつお候補が第一声

がつ にち さん ぎ いん ぎ いんせんきょ こう じ がつ とお か とうかいひょう にちかん せんきよせん  
6 月 22 日、参議院議員選挙が公示され、7 月 10 日の投開票まで 18 日間の選挙戦  
がはじまった。とうきょうせんきょく かいせんすう たい にん りっこう ほ だいいげせん  
東京選挙区では改選数 6 に対して 31 人が立候補する大激戦となっ  
ている。あたら ろうどうしゃ せいとう かか りっこう ほ すず き べん ご し  
「新しい労働者の政党をつくろう」を掲げて立候補した鈴木たつお弁護士  
は、ご ぜん じ しんじゅくえきにしぐち だいいっせい すず き こう ほ うった しょにち  
午前 10 時、新宿駅西口で第一声をあげた。鈴木たつお候補の訴えは初日  
からだいはんきょう よ とく せいねん し じ きょうかん ひろ  
大反響を呼び、特に青年からの支持や共感、ボランティアがどんどん広が  
っている。た ほう すず き こう ほ どうじょう あせ に ほんきょうさんとう すず き じんえい  
他方、鈴木たつお候補の登場に焦った日本共産党は、鈴木陣営より  
あと おな しんじゅくえきにしぐち あらわ すず き こう ほ にぎ じ みんとう に  
も後に同じく新宿駅西口に現れたが、鈴木候補がマイクを握り、自民党から日  
ほんきょうさんとう ぜんせいとう ぜっぽうすうど ひ はん はじ に ひがしぐち い どう  
本共産党までの全政党を舌鋒鋭く批判し始めると、逃げるように東口へと移動  
していった。しんじゅくえきにしぐち どうろう み と つじかわしんいちふく い いんちよう どうろう ち ば た なか  
新宿駅西口では、動労水戸の辻川慎一副委員長、動労千葉の田中  
やすひろ い いんちよう けんぼう じんけん にちべんれん かい たけうちこういちべん ご し はんげんばつ  
康宏委員長、憲法と人権の日弁連をめざす会の武内更一弁護士、3・11 反原発  
ふくしまこうどうじっこう い いんかい しい な ち え こ おうえんえんぜつ おこな ひる しん  
福島行動実行委員会の椎名千恵子さんらが応援演説を行った。さらに昼には新  
じゅくえきひがしぐち ゆうがた あき は ばらえきとう がいうえんぜつ おこな すず き こう ほ だいいっせい よう し  
宿駅東口、夕方には秋葉原駅頭で街頭演説を行った。鈴木候補の第一声(要旨)  
しょうかい へんしゅうきよく  
を紹介します。(編集局)

せんそう かいけん ぜったい ゆる  
戦争・改憲を絶対に許さない

べん ご し すず き わたし せんそう ひんこん ぼくめつ あたら ろう  
弁護士の鈴木たつおです。私は、戦争と貧困を撲滅するために、「新しい労  
どうしゃ せいとう うった さんいんせん りっこう ほ じ みんとう きょうさんとう  
働者の政党をつくろう」と訴えて参院選に立候補しました。自民党から共産党

まで、今ある政党は全部ダメです。労働者の利益と立場を本当に代表する政党をつくるのが今こそ必要です。

昨夜、「9 党首討論会」がテレビで放送されました。安倍首相はそこで、憲法は今回の選挙で争点にならないかのように言いながら、19 日のネット番組の討論会では、参院選が終わったら「秋の臨時国会で憲法を変えるための具体的な検討を始める」と言明しています。やはり最大の争点は、日本を「戦争放棄の国」から「戦争する国」へと転換する憲法改悪、これを許すのか否かです。私はこのような戦争と改憲の安倍政治を絶対に許しません。

非正規職 撤廃・派遣法廃止を

また私は「非正規職の撤廃」と「労働者派遣法の即時廃止」をみなさんとともに訴えていきたい。今、日本の労働者の 40 %にあたる 2 千万人が非正規職です。そのうち年収 200 万円以下の労働者がなんと 1400 万人もいます。過労死にまで至るほどの長時間労働を強いられ、少しでも使用者に文句を言えば「お前は明日から来なくていい」と言われる。人を人とも思わないような扱いを受けている青年が膨大に存在しています。こんな非正規職は絶対に撤廃させなければなりません。そして、その元凶である労働者派遣法をただちに廃止することです。

さらに、消費税も全廃しなければなりません。年収何億円という経営者も、年収 200 万円以下の非正規労働者も同じ税率で取り立てる。しかも「社会保障の財源がなくなってもいいのか」と人びとの弱みにつけこんで消費税率を引き上げる。こんな残酷な、ふざけきった悪税はありません。

ところが今、自民党から共産党まで全政党が、この消費税を認めています。  
「廃止しよう」と言う政党は一つありません。出来合いの政党は本当に腐っています。

「野党共闘」などというものは、実際には「第2自民党」です。彼らは安保条約を容認し、「自衛」と名がつけば戦争も認める。そして原発には一言も触れません。今、原発が次々と再稼働され、福島ではとてつもない事態が起こっています。子どもの甲状腺がんがすでに173人に上っています。ところがこの現実に対して、共産党は「原発とは関係ない」などと安倍と同じことを言っています。戦争と改憲の安倍政治、貧困をますます拡大する消費税、2千万人を超える非正規労働。これらの根を本当に断ち切るためには、労働者人民を代表する新しい政党を労働者自身の手でつくることが必要と考えます。

アベノミクスの破産は明白

今の政治は腐りきっています。都知事・舛添要一は金権腐敗で辞職に追い込まれましたが、肝心の事実は何一つ明らかにされていません。元経済再生相・甘利明の「口利き」に関する金銭授受も不起訴になりました。

さらに2020年東京オリンピック招致をめぐる10億円以上と言われている裏金です。「オリンピックなんかやめろ」という怒りの声が満ちています。リオデジャネイロ五輪も危機に陥り、州政府が財政難で非常事態を宣言するありさまです。

こうした一切合財の腐敗と危機の原因は、日本だけでなく全世界で資本主義の命脈がもはや尽きているという歴史的事実にあります。

先日(せんじつ)の 9 党首(とうしゅとうろんかい)討論会(ば)の場(ば)でも、これから(にほん)の日本(にほん)の経済(けいざい)の見通し(みとお)について自信(じしん)を持って(も)言(い)えた党首(とうしゅ)は一人(ひとり)もいませんでした。その上(うえ)、誰(だれ)も非正規(ひせいき)労働者(ろうどうしゃ)の事(こと)を語(かた)らず、「日本死ね!!!」という怒(いか)りにも答(こた)えなかった。なかでも安倍(あべ)は「アベノミクス(せい)の成果(か)が出(で)たら社会保(しゃかいほ)障(しょう)に回(まわ)す」などとうそぶき、「株価(かぶ)が上(あ)がれば企(き)業(ぎょう)は元気(げんき)になる。そうすれば労働者(ろうどうしゃ)の賃金(ちんぎん)も上(あ)がる」というアベノミクスのデタラメ(いぜん)に依然(いぜん)しがみつ(みつ)いています。こんなアベノミクスが破綻(はたん)・崩壊(ほうかい)していることは多言(たげん)を要(よう)することなく、周知(しゅうち)の事(じ)実(じつ)です。

安倍(あべ)は「世界(せかい)で最(も)も企(き)業(ぎょう)が活(かつ)躍(やく)しやすい国(くに)をつくる」と称(しょう)して、1%(だい)の大銀行(だいぎんこう)と大資本(だいしほん)をもうけさせる政治(せいじ)を続(つづ)けている。他方(たほう)で労働者(ろうどうしゃ)に対(たい)しては、「働(はたら)き方(かた)改(かい)革(かく)」とか「同一(どういつ)労働(ろうどう)同一(どういつ)賃金(ちんぎん)」などと言(い)いながら、非正規(ひせいき)労働者(ろうどうしゃ)が置(お)かれてい(れつ)る劣悪(れつあく)な労働条(ろうどうじょう)件(けん)と同(おな)じ状(じょう)態(たい)にま(せい)で正(せい)規(き)の労働者(ろうどうしゃ)も引(ひ)き下(さ)げていく。こうして正社員(せいしゃいん)をゼロにする。これが安倍(あべ)の「働(はたら)き方(かた)改(かい)革(かく)」の正(しょう)体(たい)です。

労働運動復権しゼネストを

こうした安倍政治(あべせいじ)の正(しょう)体(たい)がも(らう)はや労働者(ろうどうしゃ)から見破(みやぶ)られているからこそ、安倍(あべ)はこの命脈(めいみやく)の尽(つ)きた資本主義(しほんしゅぎ)を生(い)き延(の)びさ(さい)せる最(しゅ)後(ご)の手(しゅ)段(だん)として、憲法改悪(けんぽうかいあく)と戦争(せんそう)に訴(う)えようとしています。これは支配者(しはいしゃ)が歴史的(れきし)にず(れき)っと繰(く)り返(かえ)してきた常套(じょうとう) (じょうとう) 手段(しゅだん)です。政治(せいじ)が行(い)き詰(づ)まり、人民(じんみん)が怒(いか)りの声(こゑ)をあげる中(なか)で、支配者(しはいしゃ)たちは自(み)らの危(き)機(き)をのり(た)きるために、他国民(たこくみん)への敵対感(てきたいかん)情(じょう)を(あ)おり、戦争(せんそう)に突(つ)き進(すす)むのです。

しかし、みなさん。いったい誰(だれ)が 1%(し)の資(し)本(ほん)家(か)の利(り)益(えき)のため(せんじょう)に戦(い)場(た)に行(こく)き、他国(たこく)の人民(じんみん)と殺(ころ)し合(あ)うこと(のぞ)を望(じぶん)みますか。自分(た)たち(ひと)にも他国(たこく)の人(ひと)たちにも親(おや)があり、子(こ)

があり、<sup>きょうだい</sup>兄弟があり、<sup>こいびと</sup>恋人がいる。<sup>おな</sup>同じ<sup>ろうどうしゃ</sup>労働者ではありませんか。<sup>わたし</sup>私は、<sup>ひとにぎ</sup>一握りの<sup>しほんか</sup>資本家が<sup>いの</sup>生き延びるための<sup>せんそう</sup>戦争など<sup>ぜったい</sup>絶対に<sup>ゆる</sup>許しません。

では、<sup>せんそう</sup>どうすれば戦争を止めることができるのか。それは<sup>ろうどうしゃ</sup>労働者の<sup>だんけつ</sup>団結、<sup>ろうどう</sup>労働<sup>うんどう</sup>運動の<sup>ふっけん</sup>復権、そして<sup>しゃかい</sup>ゼネストです。<sup>まわ</sup>この社会を回しているのは<sup>ろうどうしゃ</sup>労働者です。<sup>しほんか</sup>資本家などいなくてもこの社会は回りますが、<sup>しゃかい</sup>労働者が<sup>まわ</sup>一日でも<sup>ろうどうしゃ</sup>一斉に<sup>いちにち</sup>ストライキをやれば社会は止まってしまう。その<sup>ろうどうしゃ</sup>労働者の<sup>だんけつ</sup>団結の<sup>ちから</sup>力を<sup>ちゅうしん</sup>中心に、<sup>のうみん</sup>農民や<sup>ぎょみん</sup>漁民や<sup>ちゅうしょう</sup>中小企業のおやじさんたちも<sup>きぎょう</sup>結集して、<sup>けっしゅう</sup>みんなでこの社会の<sup>しゃかい</sup>仕組みを<sup>しく</sup>根本から<sup>こんぽん</sup>つくり直す。それが今、<sup>いま</sup>本当に<sup>ほんとう</sup>求められていることです。

<sup>ろうどう</sup>労働とは、<sup>にんげん</sup>人間の<sup>もっと</sup>最も<sup>こんげんてき</sup>根源的な<sup>いのち</sup>命の<sup>かつどう</sup>活動です。その<sup>ろうどう</sup>労働が<sup>いま</sup>今ほど<sup>ふ</sup>踏みにじられている時代はない。<sup>じだい</sup>人間の<sup>にんげん</sup>生活と<sup>せいかつ</sup>労働を<sup>ろうどう</sup>奪い返し、<sup>うば</sup>未来を<sup>かえ</sup>奪い返していくために、<sup>で</sup>出来合いの<sup>あ</sup>一切の<sup>いっさい</sup>政党を<sup>せいとう</sup>全部<sup>ぜんぶ</sup>けとばして、<sup>あた</sup>新しい<sup>ろうどうしゃ</sup>労働者の<sup>せいとう</sup>政党をみんなで<sup>な</sup>つくろう。そしてこの世の中を<sup>よ</sup>根本から<sup>なか</sup>つくり直<sup>こんぽん</sup>そう。

その<sup>たたか</sup>闘いに<sup>た</sup>立ち<sup>あ</sup>上がったとき、<sup>わたし</sup>私たち<sup>ろうどうしゃ</sup>労働者や<sup>せいねん</sup>青年の<sup>みらい</sup>未来が<sup>かな</sup>必ず<sup>ひら</sup>開かれます。まさに今、<sup>いま</sup>その<sup>けつだん</sup>決断の<sup>とき</sup>時が<sup>き</sup>来ています。みなさん、ともに<sup>たたか</sup>闘いましょう！